教　務　部

部長：　大西　研作　　副部長：　菊井　浩之

（１）今年度の目標

①研究授業の実施

教員の授業力の向上を図る。

②校務支援システムの実行

今年度から本格導入される校務支援システムが滞りなく実行されるようにする。

③教育課程の効果的な運用と編成

生徒の適性や進路目標をふまえ、あわせて豊かな情操を養うことに留意して教育課程を効果的に運用する。

④学習意欲と進路意識の高揚

授業でのガイダンス、「テーマプロジェクト（総合的な学習の時間）」での外部講師による講演会や大学訪問が、生徒の学習意欲と進路意識の高揚につながるようにする。

（２）主な取り組みの計画

①研究授業を各教科必ず年１回は実施する。そこに大学の先生を招いて合評会を行う。

②校務支援システム本格運用に伴い、情報管理のシステムを確立する。マニュアル等をわかりやすく工夫して、職員の情報機器活用の環境をよりよく整える。

③すべての教科について年度途中に教育課程の実施状況を確認することにより適切な運用を図る。本校生の進路志望に対応するよう、教育課程についてさらに研究する。

④年度初めに生徒に「授業概要一覧表」（ｼﾗﾊﾞｽ）を配付することにより、年間の学習計画を立てやすくさせ、各科目の学習進度を確認しやすくさせる。１年生のコース選択説明が行われる時期に、２年用のシラバスの一部を提示し、コース選択の参考とする。

外部講師による講演会及び大学訪問を、関係学年団と連携しながら実施する。

（３）成　果

①各教科（芸家情はこのくくりとする）とも年１回は研究授業を実施することができた。香川大学教育学部の教授（または准教授）を招き、事前指導→研究授業→事後研究会（合評会）の形で実施した。大学の先生から多くの指導助言をいただき、教員の授業力の向上を図ることができた。

②校務支援システムの学級担任用、副担任用、教科担任用のマニュアルを整備するとともに、システム入力に関しての説明会を年間複数回行った。またシステム入力の詳細については日報（朝の職員打合せ会の資料）に掲載するなどこまめに指示することにより、校務支援システムは概ね滞りなく運用することができた。

③全学年新教育課程完全実施となり、各教科ともシラバスに基づき教育課程の適切な運用ができた。さらに生徒の主体的・能動的・協働的態度の育成を図るための教育課程の変更を模索することができた。

④年度初めに「授業概要一覧表」(ｼﾗﾊﾞｽ) を配布し、最初の授業で説明することにより年間計画を理解させることができた。１年生のコース選択説明が行われる時期に、２年用のシラバスの一部を提示するとともに、２年生で実際使用する教科書等を提示することによりコース選択の参考となった。1年生の大学訪問では地元の香川大学、徳島大学に行くことにより進路意識を高揚させることができた。

（４）課題と次年度以降の改善策

①平成28年度は「学びの改革推進モデル校事業」の指定を受けており、特にアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を研究する必要がある。アクティブ・ラーニングについての現職教育を行うとともに、研究授業においては大学の先生以外に教育センターの先生も招聘して指導助言をいただく。

②校務支援システムに関して細かな部分で教員の理解が不十分であったり、運用に関して現実に即していない部分があった。引き続きこまめに教員に説明・指示を与えるとともに、県教委、委託業者と連絡を密にとり、より現実的な運用に努める必要がある。

③生徒の主体的・能動的・協働的態度の育成を図るために、教育課程を一部変更する必要がある。具体的には「総合的な学習の時間」の単位数を学年進行で変更していき、将来的には各学年１単位とし、３学年通じて継続性のあるものにする。

④平成28年度入学生からスーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）事業に参加する。それにより、生徒の主体的・能動的・協働的な学びを推進し、生徒の興味関心に応じた課題研究を行う。具体的には外部講師（各分野の専門家等）の講演会の実施回数を増やし、フィールドワークを導入する。さらに日本語や英語でプレゼンテーションを行うなどの場面を設ける。